



ジュズダマに恋して

桜木 晴代

シニア自然大学卒業後の班の同期会で訪ねた浄瑠璃寺のバス

停近くの小川沿いにジュズダマを発見。おそらく、小学生時代以来の再会だったのでは？懐かしさのあまり、色づいた粒を摘み始めたが、御一行は先へ先へと。数粒しか手にいれる事ができなかったこの時の無念さが、私のジュズダマへの思いに火をつけたようだ。

その後は、私の思いを聞き知った友人たちのジュズダマ情報に基づき西へ東へと採取の旅が始まった。大和川の土手、飛鳥、能勢電鉄の笹部までにも行き、探しあてては夢中で採取した。

さて、活用するには？ジュズダマを子どもたちに、観察や、手づくりで楽しんでもらおう、と考え、穴を開け、ブレスレットにする事を思いついた。イベント時に工作として、あるいは、土産として活用されることになった。

しかし、前の年には、沢山採取できた水路沿いのジュズダマが、色づかないうちに刈られてしまっていることもあり、安定供給のためには栽培しか方法はないと思うに至った。

ならやまには、「勝手に植物を持ち込んではいけない、又ならやまにふさわしい植物でなければならぬ」との掟が。許可を得るべく数人の関係者に説明し、許可を得て、数粒を撒いた。はたして芽は出るのだろうか？育つのだろうか？活動日の度に観察。ある日、今は亡き川井さんが、「どうかね、うまく育ちそうかね？」と優しく声をかけてくれ、気にかけてくださっている事がとても嬉しかったことを思い出す。

2、3年後にはかなり繁茂し、沢山の収穫量を楽しみにしていたところ、生い茂る厄介な草と思った草刈り隊に一部刈られてしまった。

そこで、塩本さんに囲いをお願いしたところ、快く引き受けてくださり、今も健在の頑丈な囲いが誕生した。

あれから7年くらいになるのだろうか？今や

枠をはみ出し、我が物顔のジュズダマと化してしまった。ご近所の皆さまへの迷惑が多分に。山本美智子さんと、今年は必要量を推定して残し、その他は、間引くことに決めていた。ところがコロナ禍。活動再開時には既に生い茂る状態に。

今後の維持管理について山本さんと考え、悩んでいたところ、「幹事会で、“栽培範囲は囲い内のみ。イベント時の子どもの観察及び採取の環境を整える担当は、パトロールグループ”と決定した」との報告をグループ長から受ける。

“ひとりぼっちのジュズダマプロジェクト”から二人、数人と広がったジュズダマの維持管理が、会のものとなったことは、今後を心配していた二人にとっては、この上ない喜びである。

ジュズダマの収穫・管理

*9月から(茶やグレー・黒に色づいた粒を採取。それぞれの粒の、異なる色が魅力的)

*数日天日干し・虫退治のため煮沸・再度天日干しし保管



左：ドリル 中：穴あけ 右：新たに製作中のお手玉(子どもの昔遊びに)

穴あけは10分で35個前後

工具及び材料の主な購入先(2020年時点)

ドリル(DCMダイキの充電式ドリル)

2728円が最適(前転・後転が楽)

ドリルの刃(1.8ミリ)

ロイヤルホームセンターのみ扱いあり
ビーズ(ABCクラフトの200個100円から200円の大きな穴のもの)

ゴム(ダイソーの三色又は白や黒の極細)

◎以上は桜木が探し回った結果であり、他にも、適当なものがあるかも知れません。

今後共、ジュズダマの活用を!